

3月1日

主教デイビッド

David

(500頃～589頃)

～ウェールズの守護聖人～



「聖デイヴィッド」

オックスフォード大学

ジーザス・カレッジ礼拝堂

(19世紀のステンドグラス)

ウェールズの主教であったデイビッドは、メネヴィアの貴族家庭の息子として生まれる。デイビッドは「愛された者」という意味であるが、彼の初期のことについてはほとんど分かっていない。

デイビッドは若い頃に修道院を建て、修道院長となった。彼は勉学と黙想を好み、静かな生活を希望していたが、主教に選ばれ、異端(ペラギウス主義)との論争に巻き込まれていく。しかしその中、デイビッドは雄弁さと学識を示して頭角を現していく。そして大主教ダブリシウスに見込まれ、後継者としてウェールズ大主教となる。

彼はウェールズに11の修道院をつくり、主教座を立ち上げ、教会会議を二度開く。また、エルサレムやローマへの巡礼も行う。

デイビッドは、犯罪者の扱いや誤りを正すことについては、非常に寛容だった。しかし修道院での管理や指導については厳格で、修道士たちには食事の際にワインなどは飲まらずに、水しか許さなかった。そこでついたあだ名が「船頭」だったという。

彼はその後、ウェールズのキリスト教会の指導者、そして保護者へとになっていく。彼が最後に住んだ街は今でも主教座の街であり、デイビッドの家(Ty-Devi)と呼ばれている。

また、彼が建てた修道院の一つの跡地に建てられた「セント・デイヴィッド大聖堂」は中世を通して巡礼地となっていた。

彼には多くの伝説がある。人生の終盤に多くのアイルランドの聖人たちを弟子としてもった、というものや、彼が亡くなった時に、彼の魂を迎えに天使を伴ったキリストが現れた、というものもある。

デイビッドはウェールズの守護聖人として覚えられているが、この3月1日は「セント・デイヴィッツ・デイ」としてウェールズの祝日にもなっている。

絵画やステンドグラスなど美術作品に彼が描かれる時には、肩に鳩をのせて、主教の祭服を着た姿のことが多い。(Y)

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教デイビッドを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン